

ゼミノート #6

Basic of Stacks

七条彰紀

2018 年 12 月 13 日

目次

1	Definition : Prestack / Stack	1
2	Example : Stack	2
3	Proposition : Stack	4

以下, 特に改めて指定がなければ $\mathbf{C} :: \text{site}, \pi: \mathcal{F} \rightarrow \mathbf{C} :: \text{fibered category}$ を考える.

1 Definition : Prestack / Stack

定義 1.1 (Prestack, Stack)

関手 $\epsilon_{\mathcal{U}}: \mathcal{F}(U) \rightarrow \mathcal{F}(\mathcal{U})$ を用いて以下のように定義する.

- (i) 任意の $U \in \mathbf{C}, \mathcal{U} \in \text{Cov}(U)$ について $\epsilon_{\mathcal{U}} :: \text{fully faithful}$ である時, fibered category $\mathcal{F} \rightarrow \mathbf{C}$ は prestack である, という.
- (ii) 任意の $U \in \mathbf{C}, \mathcal{U} \in \text{Cov}(U)$ について $\epsilon_{\mathcal{U}} :: \text{equivalence}$ である時, fibered category $\mathcal{F} \rightarrow \mathbf{C}$ は stack である, という.

(pre)stacks の間の射は, fibered category としての射である.

注意 1.2

prestack の定義は以下のように言い換えられる: 任意の $U \in \mathbf{C}, \mathcal{U} = \{\phi_i: U_i \rightarrow U\} \in \text{Cov}(U)$ をとる. さらに $\xi, \eta \in \mathcal{F}(U)$ をとり, $\epsilon_{\mathcal{U}}$ による像を

$$\epsilon_{\mathcal{U}}(\xi) = (\{\xi_i\}, \{\sigma_{ij}\}), \quad \epsilon_{\mathcal{U}}(\eta) = (\{\eta_i\}, \{\tau_{ij}\}) \in \mathcal{F}(\mathcal{U})$$

とする. この時, 任意の射 $\{\alpha_i\}: \epsilon_{\mathcal{U}}(\xi) \rightarrow \epsilon_{\mathcal{U}}(\eta)$ (射 $\alpha_i: \xi_i \rightarrow \eta_i$ の集合) について, $\mathcal{F}(U)$ の射 $\alpha: \xi \rightarrow \eta$ が一意に存在し, $\alpha_i = (\phi_i)^* \alpha (\iff \{\alpha_i\} = \epsilon_{\mathcal{U}}(\alpha))$ となる.

標語的に言えば, prestack は「貼り合わせられる射を持つ psuedo-functor」となる. 同型射の貼り合わせは同型射であるから, prestack は「貼り合わせが (存在すれば) 一意な対象を持つ psuedo-functor」である.

注意 1.3

このノートでは、fiber が条件を満たす fibered category として (pre)stack は定義されている (fiber を用いずに (pre)stack を定義することも出来るが、今回は採用しなかった)。なので形式上、(pre)stack は fibered category を経由せず、特別な psuedo-functor として定義できる。しかし実際にそのように定義されることは少ない。

では psuedo-functor として定義しない積極的な理由はと言うと、実用上、元の fibered category にも言及する場面が多いからであると思われる。fiber だけでなく元の fibered category に言及する理由については、このセミナーのノート session 4.5 ^{†1}, 注意 2.8 を参考にして欲しい。

定義 1.4 (Sub(pre)stack)

stack :: $\pi: \mathcal{F} \rightarrow \mathbf{C}$ の sub(pre)stack とは、 \mathcal{F} の部分圏 \mathcal{G} であって、 π と包含関手の合成 $\mathcal{G} \hookrightarrow \mathcal{F} \xrightarrow{\pi} \mathbf{C}$ が fibration であり、さらにその fiber が (pre)stack であるもの。

2 Example : Stack

命題 2.1 ([1] Prop4.9)

- (i) separated presheaf of sets is a prestack.
- (ii) sheaf of sets is a stack.

(証明). $\mathbf{C} :: \text{site}, \mathcal{F}: \mathbf{C}^{op} \rightarrow \mathbf{Sets} :: \text{presheaf}$ とする。 $U \in \mathbf{C}, \mathcal{U} = \{U_i \rightarrow U\} \in \text{Cov}(U)$ を任意に取る。

今、圏 $\mathcal{F}(U), \mathcal{F}(\mathcal{U})$ は集合 (離散圏) である。なので関手 $\epsilon_{\mathcal{U}}: \mathcal{F}(U) \rightarrow \mathcal{F}(\mathcal{U})$ は写像である。さらに射 σ_{ij} も恒等射しかないから、 $\mathcal{F}(\mathcal{U})$ の対象は、任意の i, j について $\xi_i|_{U_{ij}} = \xi_j|_{U_{ij}}$ を満たす $\xi_i \in \mathcal{F}(U_i)$ の族 $\{\xi_i\}_i$ であると考えて良い。このセミナーノートの session3 の記号を用いれば、 $\mathcal{F}(\mathcal{U}) = H^0(\mathcal{U}, \mathcal{F})$ ということになる。

二つのデータ $\{\xi_i\}, \{\eta_i\}$ の間の射もやはり恒等射しかないから、「関手 $\epsilon_{\mathcal{U}}$ が fully faithful である」という仮定は「写像 $\epsilon_{\mathcal{U}}$ が単射である」と言い換えられる。これはすなわち、 \mathcal{F} が separated presheaf であるということである。

「関手 $\epsilon_{\mathcal{U}}$ が essentially surjective である」という仮定は「写像 $\epsilon_{\mathcal{U}}$ が全射である」と言い換えられるから。 $\epsilon_{\mathcal{U}}$ が equivalence であることは $\mathcal{F}(\mathcal{U}) = H^0(\mathcal{U}, \mathcal{F})$ と $\mathcal{F}(U)$ の間に全単射が存在するということである。これはすなわち、 $\mathcal{F}(U)$ が sheaf であるということである。 ■

注意 2.2

この命題で分かるとおり、prestack は presheaf の抽象化ではなく、separated presheaf の抽象化である。そうすると、我々は psuedo-functor $\mathbf{B}^{op} \rightarrow \mathbf{Cat}$ を prestack と呼び、今 prestack と呼んでいるものは separated prestack と呼ぶべきなのかも知れない。我々がそうしないのは、後に定義される “separated stack” との混乱を避けるためである。

以下の二つの例は後にセミナーでも証明を扱う。

例 2.3

^{†1} URL : https://github.com/ShitijyouA/MathNotes/blob/master/AlgebraicStacks/session4_5_FiberedCategoriesContinued.pdf

$X \in \mathbf{C}$ に対し, 圏 \mathbf{Shv}/X を以下のように定める.

Objects.

X への射を持つような \mathbf{C} の対象 U と, U 上の sheaf \mathcal{U} の組.

Arrows.

射 $(U, \mathcal{U}) \rightarrow (V, \mathcal{V})$ は, \mathbf{C} の射 $f: U \rightarrow V$ と, morphism of sheaves on V $f^\#: \mathcal{V} \rightarrow f_*\mathcal{U}$ の組.

この時, fibered category $\mathbf{Shv}/X \rightarrow \mathbf{C}/X; (U, \mathcal{U}) \mapsto U$ は stack である. この例で考える sheaf を quasi-coherent sheaf に制限して得られる fibered category $\mathbf{QCoh}/X \rightarrow \mathbf{C}/X$ も stack である. この二つの例については, このセミナーでも後に証明を扱う.

例 2.4

$X \in \mathbf{Sch}$ に対し, 圏 \mathbf{QCoh}/X を以下のように定める.

Objects.

$\mathrm{Fpqc}(X)^{\dagger 2}$ の対象 U と, U 上の sheaf (on fpqc topology) \mathcal{U} の組.

Arrows.

射 $(U, \mathcal{U}) \rightarrow (V, \mathcal{V})$ は, \mathbf{C} の射 $f: U \rightarrow V$ と, morphism of sheaves on V $f^\#: \mathcal{V} \rightarrow f_*\mathcal{U}$ の組.

この時, fibered category $\mathbf{QCoh}/X \rightarrow \mathbf{C}/X; (U, \mathcal{U}) \mapsto U$ は stack である.

例 2.5 ([2] 4.4.1)

以下で定まる fibered category は stack である.

$$\begin{array}{ccc} \left\{ \begin{array}{l} \text{pair of scheme over } S :: Y \\ \text{and closed imm. } W \hookrightarrow Y \end{array} \right\} & \rightarrow & \mathrm{Fppf}(S) \\ (Y, W \hookrightarrow Y) & \mapsto & Y \end{array}$$

例 2.6 ([2] 4.4.4)

以下で定まる fibered category は stack である.

$$\begin{array}{ccc} \left\{ \begin{array}{l} \text{pair of scheme over } S :: Y \\ \text{and open imm. } W \hookrightarrow Y \end{array} \right\} & \rightarrow & \mathrm{Fppf}(S) \\ (Y, W \hookrightarrow Y) & \mapsto & Y \end{array}$$

以下の二つの例は後に一般化される.

例 2.7 ([1] §4.3.1)

arrow category $\mathbf{Sch}^{\rightarrow}$ の対象を affine morphism に制限したものを圏 \mathbf{Aff} とする. 以下で定まる fibered category は stack である.

$$\begin{array}{ccc} \mathbf{Aff} & \rightarrow & \mathrm{Fppf}(\mathrm{Spec} \mathbb{Z}) \\ [X \rightarrow Y] & \mapsto & Y \end{array}$$

^{†2} 圏 \mathbf{Sch}/X に fpqc topology を備えたもの.

例 2.8 ([2] 4.4.15)

quasi-compact open imbedding の後に affine morphism を合成した射のことを quasi-affine morphism という。arrow category $:: \mathbf{Sch}^\rightarrow$ の対象を quasi-affine morphism に制限したものを \mathbf{QAff} とする。以下で定まる fibered category は stack である。

$$\begin{array}{ccc} \mathbf{QAff} & \rightarrow & \mathbf{Fppf}(\mathrm{Spec} \mathbb{Z}) \\ [X \rightarrow Y] & \mapsto & Y \end{array}$$

3 Proposition : Stack

命題 3.1 ([2] Prop4.12)

二つの equivalent な fibered category があり、かつ一方が stack ならば、もう一方も stack である。

(証明). $\mathcal{F}, \mathcal{G} ::$ fibered categories over \mathbf{C} とし、 $F: \mathcal{F} \rightarrow \mathcal{G} ::$ morphism of fibered categories とする。この時 cover of $U \in \mathbf{C} :: \mathcal{U} = \{U_i \rightarrow U\}$ について $F_{\mathcal{U}}$ を定義する。

$$\begin{array}{ccc} F_{\mathcal{U}}: & \mathcal{F}(\mathcal{U}) & \rightarrow \mathcal{G}(\mathcal{U}) \\ \text{Objects:} & (\{\xi_i\}, \{\sigma_{ij}\}) & \mapsto (\{F\xi_i\}, \{F\sigma_{ij}\}) \\ \text{Arrows:} & \{\alpha_i\} & \mapsto \{F\alpha_i\} \end{array}$$

更に二つの射 $F, G: \mathcal{F} \rightarrow \mathcal{G}$ とその間の base-preserving natural transformation $:: \rho: F \rightarrow G$ に対し、 $\rho_{\mathcal{U}}: F_{\mathcal{U}} \rightarrow G_{\mathcal{U}}$ を次のように定義する。

$$(\rho_{\mathcal{U}})_{(\{\xi_i\}, \{\sigma_{ij}\})} = \{\rho\xi_i\}.$$

以上から、 F が equivalence ならば $F_{\mathcal{U}}$ も equivalence である。したがって以下の commutative diagram of weak 2-category $^{\dagger 3}$ が得られる。

$$\begin{array}{ccc} \mathcal{F}(U) & \xrightarrow{\epsilon_{\mathcal{U}}} & \mathcal{F}(\mathcal{U}) \\ F \downarrow & & \downarrow F_{\mathcal{U}} \\ \mathcal{G}(U) & \xrightarrow{\epsilon_{\mathcal{U}}} & \mathcal{G}(\mathcal{U}) \end{array}$$

この可換図式から、主張が得られる。 ■

命題 3.2 ([2] Exc 4.I)

$\mathcal{F}, \mathcal{F}' ::$ stack on \mathbf{C} , $f: \mathcal{F} \rightarrow \mathcal{F}' ::$ morphism of stacks とする。 $f ::$ isomorphism は以下の 2 条件が成立することと同値。

- (a) 任意の $X \in \mathbf{C}$ について、fiber の間の射 $f_X: \mathcal{F}(X) \rightarrow \mathcal{F}'(X)$ は fully-faithful.
- (b) 任意の $X \in \mathbf{C}$ と $x \in \mathcal{F}'(X)$ について、covering of $X :: \{\phi_i: X_i \rightarrow X\} \in \mathrm{Cov}(X)$ が存在し、全ての x の pullback $:: \phi_i^* x \in \mathcal{F}'(X_i)$ が $\mathcal{F}(X_i)$ の essential image に属す。

(証明). (TODO) ■

^{†3} 射の合成の間に natural isomorphism が存在するという意味で可換。

補題 3.3

site $:: \mathbf{C}$ を, 空集合の cover として空集合を持つ ($\emptyset \in \text{Cov}(\emptyset)$) ものとする. $\pi: \mathcal{F} \rightarrow \mathbf{C} :: \text{stack}$ について, 以下の圏同値が成立する.

$$\mathcal{F}(\emptyset) \simeq \mathbf{1}.$$

特に, $\mathcal{F}(\emptyset)$ の任意の二つの対象の間には, ただ一つの同型射が存在する.

(証明). category of descent data $:: \mathcal{F}(\mathcal{U})$ の対象を考える. これは \mathcal{U} で添字付けられた対象の族の二つ組である. なので $\mathcal{U} = \emptyset$ について, $\mathcal{F}(\emptyset)$ の対象は (\emptyset, \emptyset) しかない. 射も \mathcal{U} で添字付けられた族であるから, 非自明な射は存在しない. ■

この補題の仮定は奇妙に見えるかも知れないが, 以下の通り, このように仮定しても問題はないし, 我々が扱う殆どの site はこの仮定を満たす.

主張 3.4

圏 \mathbf{C} の任意の対象 $U \in \mathbf{C}$ について, 命題「 $\emptyset \in \text{Cov}(U)$ 」は Grothendieck topology の公理 (定義) と独立である. すなわち, $\emptyset \in \text{Cov}(U)$ としてもしなくても矛盾は生じない.

(証明). 命題「 $\emptyset \in \text{Cov}(U)$ 」を P と書く. Grothendieck topology の定義を見直そう. cover of $\emptyset :: \mathcal{U} \in \text{Cov}(U)$ が満たすべき条件を記号で書き下す.

- (a) $\forall [V \rightarrow U] \in \mathbf{C}/U, [\forall [U' \rightarrow U] \in \mathcal{U}, \exists U' \times_U V] \implies \{U' \times_U V \rightarrow V \mid [U' \rightarrow U] \in \mathcal{U}\} \in \text{Cov}(V).$
- (b) $\forall \mathcal{V} := \{\mathcal{U}'_{U'} \mid \mathcal{U}'_{U'} \in \text{Cov}(U')\}_{U' \in \mathcal{U}}, \{U'' \rightarrow U' \rightarrow U \mid [U' \rightarrow U] \in \mathcal{U}, [U'' \rightarrow U'] \in \mathcal{U}'_{U'}\} \in \text{Cov}(U).$

クラス X と述語 F について “ $\forall x \in X, F(x)$ ” という文は “ $\forall x, [x \in X \implies F(x)]$ ” の省略形である. したがって, $X = \emptyset$ であるとき, “ $\forall x \in X, F(x)$ ” という文は任意の F について真. また, $\{f(x) \mid x \in \emptyset\} = \emptyset$.

なので, 以上の文を $\mathcal{U} = \emptyset$ の場合に考えると (すなわち P を仮定すると), いずれも P と同値に成る. よって $P \implies P$ ということになる. 一方, 否定 $\neg P$ を仮定しても矛盾が生じないことは明らか. ■

例 3.5

圏 \mathbf{C} を \mathbf{Sch} の部分圏や \mathbf{Sch}/S ($S :: \text{scheme}$) とする. morphism of schemes のクラス $\mathcal{P} \subset \text{Arr}(\mathbf{C})$ をとり, 以下のように \mathbf{C} 上の Cov を定めたとする:

$$\begin{aligned} \text{Cov}(U) &= \{\mathcal{U} \mid \mathcal{U} :: \text{jointly surjective family and } \forall \phi \in \mathcal{U}, \phi \in \mathcal{P}\} \\ &= \left\{ \mathcal{U} \left| \bigsqcup_{U' \in \mathcal{U}} U' \rightarrow U :: \text{surjective and } \forall \phi, [\phi \in \mathcal{U} \implies \phi \in \mathcal{P}] \right. \right\}. \end{aligned}$$

この時, $\bigsqcup_{U' \in \emptyset} U' = \emptyset$ なので $\emptyset \in \text{Cov}(\emptyset)$.

このセミナーで定義した Zariski site, etale site, ... などは全てこの主張のように定義されている.

補題 3.6

圏 \mathbf{C} を \mathbf{Sch} の部分圏や \mathbf{Sch}/S ($S :: \text{scheme}$) とする. $U \in \mathbf{C}, \{U_i \rightarrow U\} \in \text{Cov}(U)$ をとり, $V = \bigsqcup_i U_i$ と置く.

$\{U_i \rightarrow V\} \in \text{Cov}(V)$ と仮定する^{†4}と $\pi: \mathcal{F} \rightarrow \mathbf{C} :: \text{stack}$ について, 圏同値 (TODO: strict 2-equivalence?)

^{†4} 例えば, Zariski topology より細かい位相ならばこの仮定は成立する.

ここは ϵ と圏同型の合成)

$$\mathcal{F}\left(\bigsqcup_i U_i\right) \simeq \prod_i \mathcal{F}(U_i)$$

が成立する.

(証明). 瑣末なことでは有るが: $\{U_i \rightarrow V\}$ の添字について, $i \neq j$ ならば $U_i \neq U_j$ である, と仮定して一般性を失わない.

$\mathcal{U} = \{\text{inj}_i: U_i \rightarrow V\} (\in \text{Cov}(V))$ と置く. 次の関手が圏同値であることを示す.

$$\begin{aligned} E: \quad & \text{im } \epsilon_{\mathcal{U}} && \rightarrow && \prod_i \mathcal{F}(U_i) \\ \textbf{Objects:} \quad & (\{\text{inj}_i\}^* \xi_i, \{\sigma_{ij}\}_{i,j}) && \mapsto && ((\text{inj}_i)^* \xi)_i \\ \textbf{Arrows:} \quad & \{\alpha_i\}_i && \mapsto && (\alpha_i)_i \end{aligned}$$

$\xi_i := (\text{inj}_i)^*$ とおく. これが示せれば, $\mathcal{F} :: \text{stack}$ なので主張も得られる.

まず, 仮定の状況では, injection map (coprojection) $:: U_i \rightarrow V$ についての fiber product は次のように成る.

$$U_{ij} = U_i \times_V U_j = \begin{cases} U_i & (U_i = U_j) \\ \emptyset & (U_i \neq U_j). \end{cases}$$

■ $E :: \text{essentially surjective.}$ $i \neq j$ の時, σ_{ij} は $\mathcal{F}(U_{ij}) = \mathcal{F}(\emptyset)$ の射であるから, $\xi_i|_{\emptyset}$ と $\xi_j|_{\emptyset}$ の間に存在するただ一つの射である. 一方, $i = j$ の時は, $(\text{pr}_i)^*(\text{inj}_i)^* \xi$ と $(\text{pr}_j)^*(\text{inj}_j)^* \xi$ が完全に等しいので, $\sigma_{ij} = \text{id}_{\xi_i}$. 以上より, 対象同士の次の対応は $\text{Ob}(E)$ の逆対応と成る.

$$\begin{aligned} \text{Ob}\left(\prod_i \mathcal{F}(U_i)\right) & \rightarrow \text{Ob}(\text{im } \epsilon_{\mathcal{U}}) \\ (\xi_i)_i & \mapsto (\{\xi_i\}_i, \{\sigma_{ij}\}_{i \neq j} \cup \{\text{id}_{\xi_i}\}_i) \end{aligned}$$

これは $E :: \text{essentially surjective}$ を意味する.

■ $E :: \text{fully-faithfull.}$ また, 上で述べたことから, 射 $\{\alpha_i\}: \epsilon_{\mathcal{U}}(\xi) \rightarrow \epsilon_{\mathcal{U}}(\eta)$ に課された条件が, 任意の射の組み合わせ $(\alpha_i: \xi_i \rightarrow \eta_i)_i$ について成立することも分かる ($i \neq j$ と $i = j$ の場合で証明は異なる). なので全単射

$$\text{Hom}(\epsilon_{\mathcal{U}}(\xi), \epsilon_{\mathcal{U}}(\eta)) = \text{Hom}((\xi_i)_i, (\eta_i)_i) = \text{Hom}(E(\epsilon_{\mathcal{U}}(\xi)), E(\epsilon_{\mathcal{U}}(\eta)))$$

が得られる. これは $E :: \text{fully-faithfull}$ を意味する. ■

定理 3.7 (Stackification of category fibered by groupoids.)

$\mathbf{C} :: \text{site}$, $\mathcal{F} :: \text{category fibered by groupoids over } \mathbf{C}$ とする. この時, $\bar{\mathcal{F}} :: \text{stack in groupoids over } \mathbf{C}$ と $\theta: \mathcal{F} \rightarrow \bar{\mathcal{F}} :: \text{morphism of fibered category}$ が存在し,

$$(-) \circ \theta: \text{HOM}_{\mathbf{C}}(\bar{\mathcal{F}}, -) \rightarrow \text{HOM}_{\mathbf{C}}(\mathcal{F}, -)$$

が圏同値となる.

(TODO: これは [2] Thm4.6.5 からとった. しかし, <https://stacks.math.columbia.edu/tag/02ZM> に一般の場合が書かれている. 出来ればこちらを理解したい)

例 3.8

presheaf の stackification は sheafification と一致する.

例 3.9 (arXiv:math/0305243v1, Prop3.6)

$S ::$ scheme, $\mathcal{M} ::$ algebraic stack over \mathbf{Sch}/S , $\mathcal{G} ::$ sheaf in groups over \mathbf{Sch}/S , acting on \mathcal{M} とする.
この時, \mathcal{M} の \mathcal{G} による categorical quotient $:: \mathcal{M}/\mathcal{G}$ は, 以下の prestack (2-functor として定義する) $:: \mathcal{P}$ の stackification として定義される.

Objects of $\mathcal{P}(U)$. $\mathcal{M}(U)$ の対象と同じ.

Arrows of $\mathcal{P}(U)$. $g \in \mathcal{G}(T)$ と $\mathcal{M}(U)$ の射 $g * x \rightarrow y$ の組.

ただし $U \in \mathbf{Sch}/S$ は任意.

参考文献

- [1] Notes on grothendieck topologies, fibered categories and descent theory (version of october 2, 2008).
- [2] Martin Olsson. *Algebraic Spaces and Stacks (American Mathematical Society Colloquium Publications)*. Amer Mathematical Society, 4 2016.